7

第３分科会　社会科教育（中学校）

生徒の「主体的・対話的で深い学び」を社会参画につなげる評価方法の工夫

～レリバンスの概念を用いて～

１．設定理由

学習指導要領の改訂により、観点別学習状況の評価の観点は、育成すべき資質・能力の３つの柱に基づき、３観点に変更される。特に「主体的に学習に取り組む態度」に関しては、通知でポイントは挙げられているものの、どのように評価場面・方法を計画したらよいか、具体的に不透明な部分が多い。また、生徒の学習評価について、現状では評価することが目的化し、「評価のための評価」となってしまっているケースが多く見受けられる。

そこで、新学習指導要領の実施に先駆けて一つの案を模索・提示することで、それら評価の方法のあり方について考えを深めるとともに、適切な評価の方法について研究したいと考え、本主題を設定した。

２．研究仮設

社会に見られる課題の当事者としての自分を、生徒自身に強く意識させることができれば、授業での学びを社会の学びにつなげて考えることができるようになるだろう

３．研究内容

○望ましい解決策を選択・判断させる授業において、生徒自身がその授業内容と将来の生活との関連を見出せるような、レリバンスの高い学習課題を設定する。

○その授業（単元）を通して、自分は「何が身についたのか」を、自ら評価する機会をとる。

４．結論

○生徒の発言が活発になり、考え方の幅が広がったことに加え、自分が理解できている内容や知識の定着が不十分な内容などを生徒自身で把握・分析できるようになった。

○生徒の理解度等を指導者が把握し、そのことにより指導の改善に生かせるようになった。

○個人の立場に留まらず、“社会全体から見た”レリバンスがある学習についても併せて考えることで、より効果的な学習が期待できる。

印旛支部
富里市立富里南中学校
村　上　美　樹
印西市立船穂中学校
吉　田　知　宏

3－2

1．研究主題

生徒の「主体的・対話的で深い学び」を社会参画につなげる評価方法の工夫 ～レリバンスの概念を用いて～

2．主題設定の理由

（1）学習指導要領より

中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説「社会科編」第1章総説「2　社会科改訂の趣旨及び要点」（1）改訂の趣旨 ②社会科の改訂の基本的な考え方では、今回の改訂において育成をめざす資質・能力が三つの柱として明確に整理されたことを踏まえ、基本的な考え方が3点に集約されたことについて記されている。そして、その中で、次のように述べられている。

> （ア）基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得
> …基礎的・基本的な「知識及び技能」を、子どもたちの未来において、生きて働くものとして確実な習得を図ることが必要である。…
> （イ）「社会的な見方・考え方」を働かせた「思考力、判断力、表現力等」の育成
> …社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したりする学習を一層充実させることが求められる。
> （ウ）主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成
> …これからの社会を創り出していく子どもたちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくことが強く求められている。…

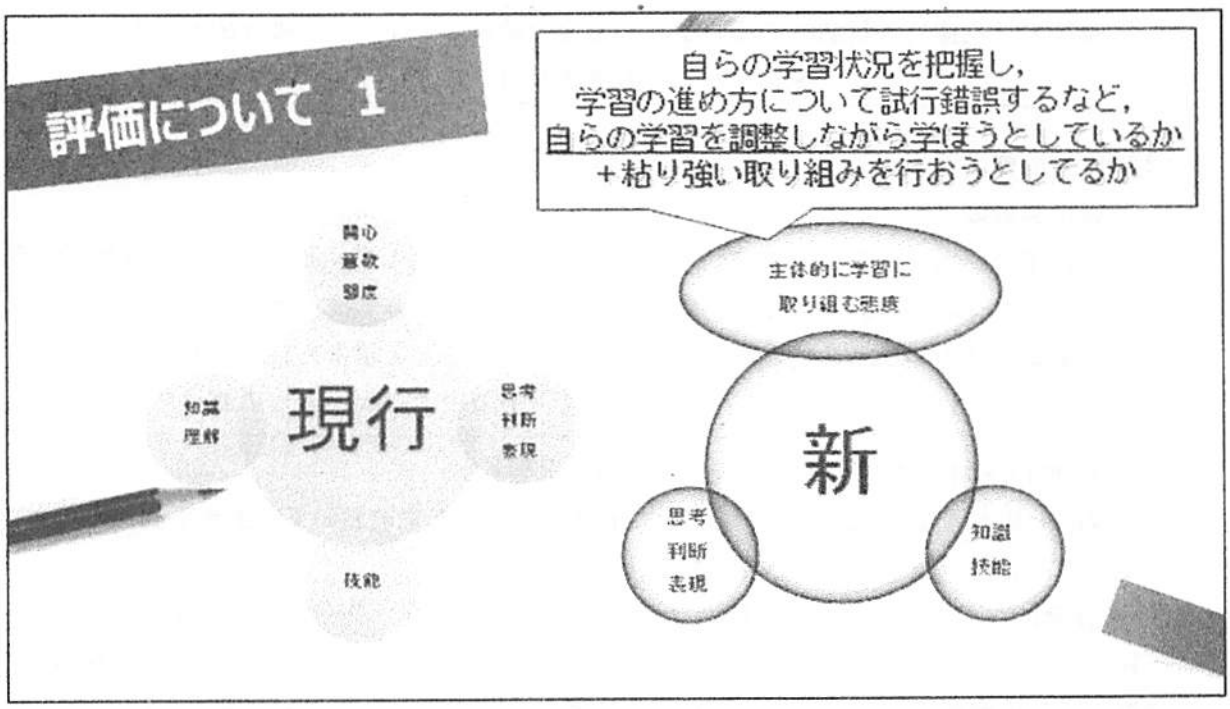
これらは、中央教育審議会で答申された、「主体的に社会の形成に参画しようとする態度や、資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分である。」等といった指摘を受けて出されたものである。

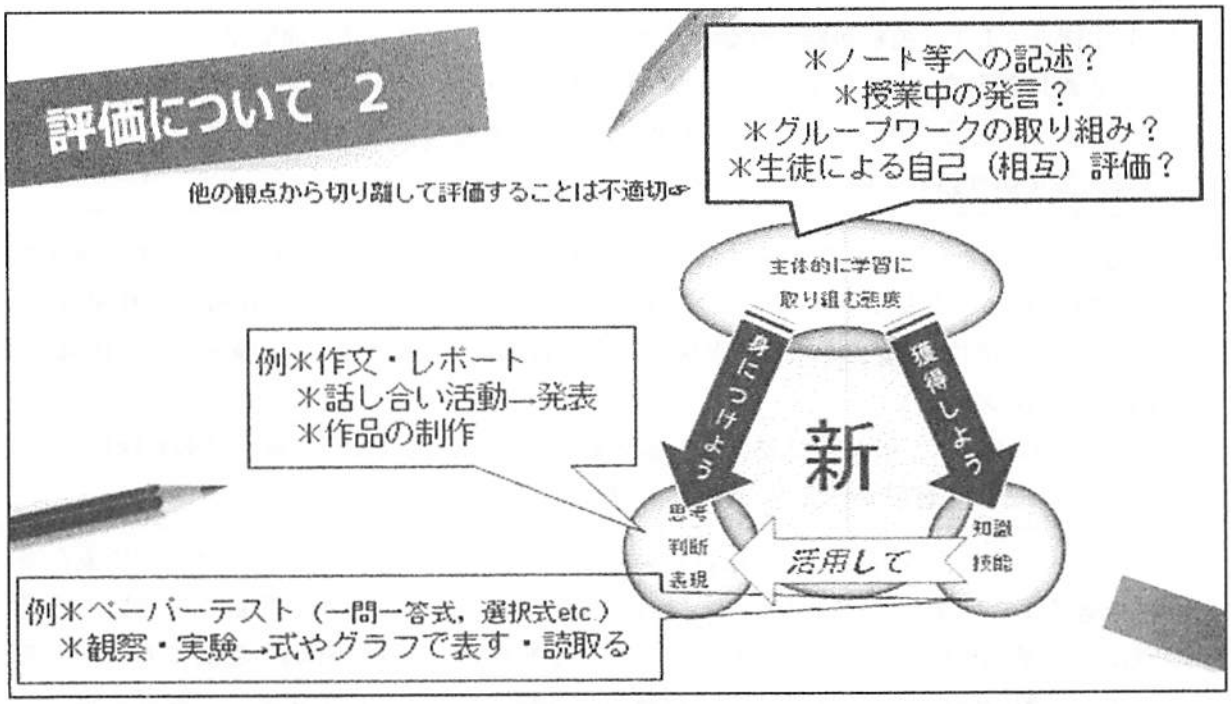
また、評価について、同解説「総則編」第3章教育課程の編成及び実施「3教育課程の実施と学習評価」（2）学習評価の充実において、次のように述べられている。

> （1）生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。

ここで強調されているのは、評価は教員のためにあるのではなく、生徒のためにあるということである。ただ、生徒の学習状況を評価する学習評価は、生徒の学びを深めるものとして役立てられなければいけないはずであるが、手段が目的化した、「評価のための評価」となってしまっているケースが多いのが現状見受けられる。そこで、新学習指導要領の全面実施に先駆け、生徒の主体的・対話的で深い学びを社会参画につなげるべく、社会科における評価のあり方はどうあるべきかについて研究を進めていく。

図１・２





（２）印教研社会科研究部研究主題より

よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学習 ～自ら課題をみいだし、自らの考えを表現できる児童生徒の育成をめざして～

本研究は、上記の印教研社会科研究部研究主題を受けて設定している。今回の学習指導要領改訂により、観点別学習状況の評価の観点は、育成すべき資質・能力の３つの柱に基づき、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の３観点とされた。特に「主

体的に学習に取り組む態度」は、学校教育法30条2項に示された学力の重要な三つの要素に合わせたものとなっており、単に継続的な行動や積極的な発言等を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するということではなく、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかが重要視されるようになっている。つまり、生徒自身が自分の学びについて振り返り、次へのめあてをもつことのできる活動のさらなる充実が求められているということである。この振り返りによる学習評価は、そのスキルを育んでいくことで、その授業のめあてに対してどのようなことが課題に残ったのかを考えるようになったり、これからどのようなことをやっていきたいのか考えるようになったりするなど、生徒自ら課題をみいだすことにつながっていくと考える。そこで本研究では、いかにすれば知識・技能を総合的に活用できる力（＝生きる力）を保障できるのかまで見据えながら、生徒の学習改善に資する評価のあり方について検証する。

（3）生徒の実態より

本校は富里市の南部に位置し、全校生徒243人（全12学級、特別支援学級等含む）から成る中規模校である。地域の特徴としては、学区が広く、ほぼ全生徒が自転車通学をしており、通学に約1時間を要する生徒もいる。また、学校の周囲は畑に囲まれ、農家を営んでいる家庭も目立つ。ゆえに、近年は核家族も増えているが、二世帯・三世帯家族も少なくない。保護者の中には、本校出身者も多数おり、学校行事やＰＴＡ活動などをはじめ、学校運営に協力的な家庭が多い。

生徒は人懐こく、素直な子が大半であり、一時期課題であった長欠者も現在はほとんどいない。しかし一方で、学力の低さが依然として課題になっている。生徒は、授業には落ち着いて臨んでおり、熱心にノートをとったり課題に取り組んだりする姿が見られるものの、各テストの結果にあまり結びついていない。特に社会科は、暗記教科とみなしている傾向が強く、学んだ内容はそれぞれ独立したものと捉えているため、既習事項を活用したり、他の単元の内容と関連させたりして考えることが難しい。

また、他者（級友・保護者・教員等）への依存が強く、“自分で考えて判断し、行動する”ということが苦手な生徒が目立つ。そこで、より意欲的に社会的事象と向き合うことができるようにするため、生徒がとりくみやすい（考えやすい）題材を用いることとし、自分なりの課題意識をもち、思考し、反省・評価することで、本人の学びが深まるよう、自分自身の学びを振り返る機会を設けることとした。

3．研究の目標

一人ひとりの生徒が、その授業を通して「何が身に着いたのか」について、①自分（生徒自身）でその学びを評価し、さらにそれを②他者（教員等）が評価することによって、生徒が社会とのつながりを実感できるようにする。

4．研究の仮設・手立て

社会に見られる課題の当事者としての自分を、生徒自身に強く意識させることができれば、授業での学びを社会の学びにつなげて考えることができるようになるだろう。

望ましい解決策を選択・判断させる授業において、生徒自身がその授業内容と将来の生活との関連を見出せるような、レリバンスの高い学習課題を設定する。

→生徒が当事者意識をもち、生徒の「今」や「将来」の関心が生きる課題とする。また、選択・判断の場面では、「現実的に」ということを大切にさせ、その上で理想とすべき社会を構築させる。さらに、対話的な活動を通して、自らの有する価値を生徒一人ひとりに気づかせるようにする。

＊レリバンス

学びの意義や関連性という意味。何か二つの事柄の間につながりがあるということを指す。すなわち、「レリバンスがある学習」とは、学ぶ意義や自分との関わりを感じられる学習をいう。

図３

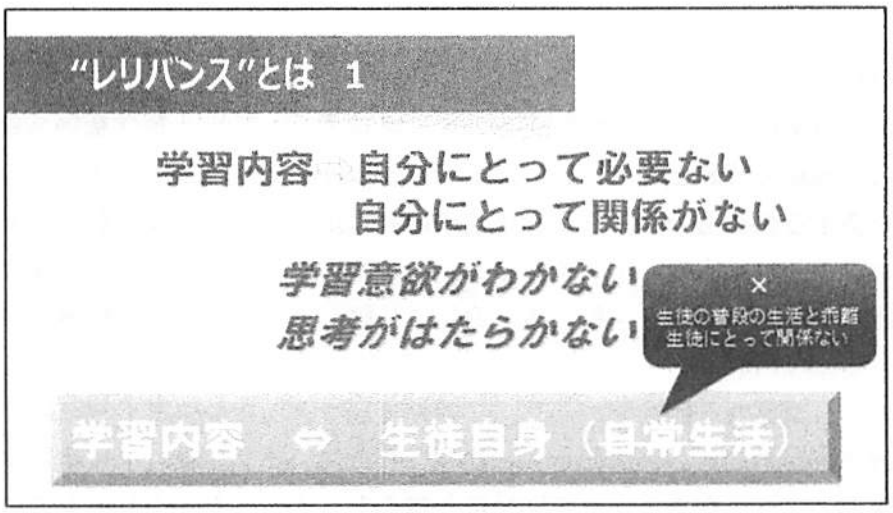
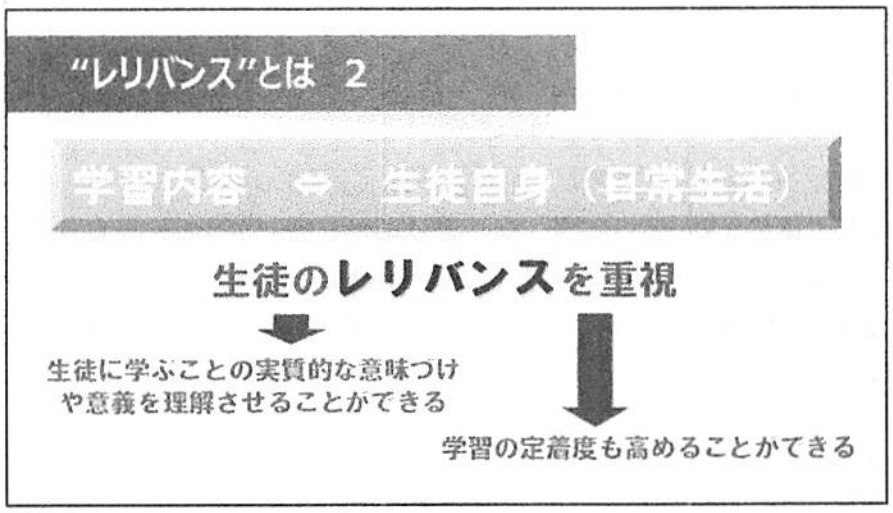


図４



〈手立て２〉

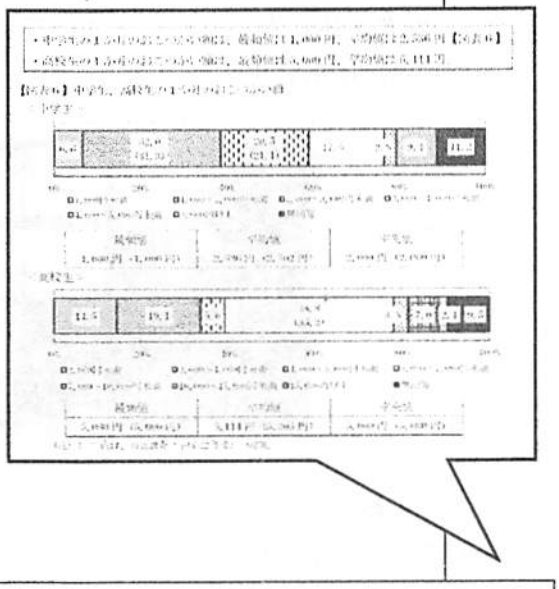
その授業（単元）を通して、自分は「何が身についたのか」を、自ら評価する機会をとる。

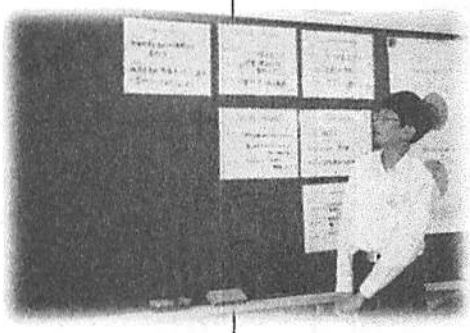
→生徒自らが「知っていること」や「知るべきこと」をメタ認知しながら整理・評価することで、その課題が「学習者にとっての課題」でもあることに気づかせ、これからの社会の一員として適切な社会的判断・行為を図ることができるようにする。

5．研究実践

公民的分野

単元名　「消費税」（私たちの生活と財政）

時配	学習活動と学習内容	指導・支援	資料
5	1　“税”について知っていることを発表する。 	・消費税という声から、10 月に予定されている増税の話に結びつける。 ・「学び」カードへ、現時点での“税”に関する知識を記入させる。 	「学び」カード
2	2　本時の学習のめあてを確認する。		
	消費税から、私たちの“税”の使い道を考えよう		
5	3　消費税について簡単に把握し、自分の小遣いの可処分所得の変化を考える。	・自分の小遣いの話から、国家全体の話に発展させる。	知るぽると 調査結果
１０	4　資料をもとに、様々な視点から自分の考えをまとめる。 ・「なぜ消費税率を上げなければいけないか」 ・「税率が上がることで生活はどう変わるか」	・１つの資料だけに頼らないようにさせる。 ・できるだけ自分事として考えられるよう、手が止まってしまう生徒には具体例を示していく。	ワークシート 新聞記事 関連書籍
１０	5　グループ内で意見交換を行う。	・自分の意見がまとまっていない生徒は、他の生徒の意見を聞いて意見を形成できるようにさせる。	ワークシート

12	6　増税によって増えた歳入をどのように使うのが良いかをまとめ、発表する。 ・「もし財務大臣になったら、……のために使用します。」	・意見交換を通して得た新しい見方・考え方には波線を引かせる。 ・使い道については、理由も併せて述べられるようにする。	ワークシート
			
5	7　本時の振り返りを行い、これからの学習内容を確認する。	・生徒の意見について補足説明を行い、政治・経済分野への橋渡しとしていく。	
3	8　「学び」カードへの記入を行い、本時の学びを自己評価する。	・回収後、赤字を入れ、生徒に返却する。	「学び」カード

6．検証

（1）手立て1について

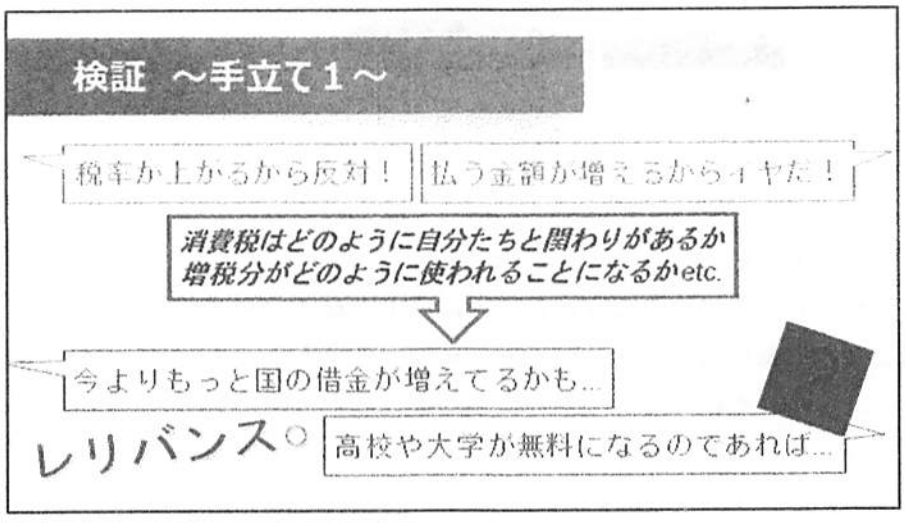
“税”についての学習は、社会保障に関する分野をはじめ、政治・経済の両分野にまたがる重要事項である。また、“税”の中でも消費税は、生徒にとって小遣いの可処分所得の増減に直接かかわる事項である。そのゆえ、消費税を扱った授業は、他人ごとではない（＝レリバンスがある）学習を実現するのに適したものになり得ると考えた。実際、公民の学習にあまり興味を示していなかった生徒も多かったが、授業後のアンケート結果には、そうした生徒の興味・関心を高めることができたと読み取れる数値の変化や文言が見られた。

消費税は、国民全員が物品の購入やサービスを受けるときなどにかけられ、業者が責任をもち納税する間接税である。そこで、生徒には、自分の小遣いのみで考えるのではなく、国家全

体として考えるという視点も授業内で与えることとした。税制についてはとかく不公平感などがつきまとう現代社会であるが、生徒であればさらにそれが顕著であり、増税に関しては、「税率が上がるから反対」「払う金額が増えるからイヤだ」というように、短絡的な発想をしてしまう生徒が大半であった。そのため、主権者として・納税者として生徒らが間接的に負担することになる、消費税の税率引き上げによる歳入増加分の使い道を自分ごととして考えさせた。

自分の考えをまとめたり意見交換をしたりする過程を通して、増税に否定的な反応を示していた生徒の中にも、「自分で働いてお金を稼ぐときに、今よりもっと国の借金が増えていると思うとゾッとする」「兄弟が多いので、保育園や高校にタダで行けるようになれば親が楽になる」など、増税に伴う変化を前向きに捉えようとする姿もあった。特に、増税がもたらす自分や家族の生活に関わってくると直感的にわかる内容については、どの生徒も意欲的に考えを巡らせていた。また、「高校無償化するならいいのでは」という意見に対して、グループ内で「そんなにすぐに変わるわけがない」「お金足りるのかな」などという現実的な意見が挙がるなど、その賛否について磨き合う場面も見られた。こうしたやりとりは、まさに生徒にとってレリバンスがある学習となっている表れといえる。

図５



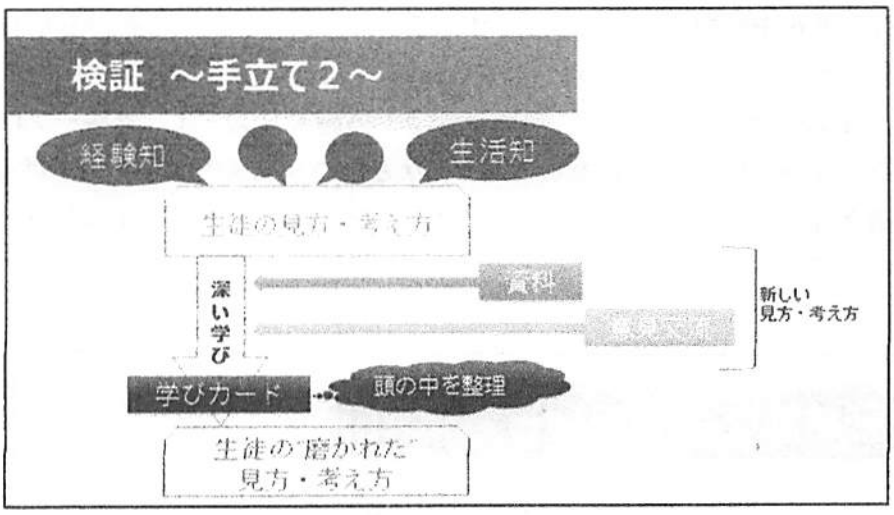
（２）手立て２について

資料を参考に、自分の考えを明確にした上でグループでの意見交流を図り、最終的に公約のようなものを発表させることで、どれだけ深い学びが得られたかを測れるようにした。ここでいう、評価の対象ともなる深い学びとは、生徒の既有の知識を連ねたり、生徒個人の経験や生活のみを通したりした理解ではなく、生徒の既有の知識にはない、生徒個人の経験知や生活知とは異なった見方や考え方を可能にするような理解である。つまり、資料の読み取りや、読み取った資料から解釈できる意見、それらを自分自身の意見として意味づけたものを、他者との話し合いを通して見方・考え方がより深く理解できたかということを指している。（既有の知識や経験知、生活知をないがしろにしてよいというわけではない。）そして、「学びカード」という自己評価用紙への記入を取り入れることで、学習者個人から見た学ぶ意義や自分との関わりについての認識を確認させ、社会的事象を自分なりに捉える力を育むことをねらった。

歳入の使用用途についての発表では、これまでに身につけた知識や他者の意見などの中から

より良いと考えるものを取捨選択したり、組み合わせたりした内容が多く挙がったが、「学びカード」への記入（自己評価）を通して、それらの知識や考え方を整理し、本時で「何が身についたのか（何を学んだのか）」をより明らかにできたことがカードの記述やアンケート等からわかった。そこでの学びと自分自身のつながりに気づくことができたのは、授業内での他者との比較や自己評価という振り返りの場面があってのことである。こうして、価値多元化社会の現実と、そこから生じる社会的課題の複雑さを理解するのもまた、生徒が社会とのつながりを実感する瞬間とみなすことができる。

図６



（３）アンケート結果から

手立て１・２を通して、生徒の社会科の授業に対する意欲の向上があったばかりでなく、話し合いや発表などの活動を通して新しい知識や見方・考え方を得ることに、より積極的になれたことがわかる。また、それまで自分の好きなこと・ものに関するニュースには関心があると答えていた生徒は、学習内容と自分との関係に気がつくことで、社会の出来事への関心がより広範囲にわたるようになっている。

勉強のやりがいを「テストで高得点をとること」と考えていた生徒は、総じて学習意欲が低く、諸活動にも消極的な傾向があった。しかし、そうした生徒も、レリバンスの高い学習にはやりがいを感じられており、学びに向かう姿勢を強化することができたとみることができる。

「学びカード」のとりくみは、本時の振り返りを行うにあたり、改めてそこでの学びとこれまでの学びを結びつける機会を設けることにもなっていた。実際、展開時には出てこなかった考え等に気がついたり、新たに案を思いついたりした生徒もおり、一定の効果があったといえる。

年　組　番

これまでの学習でわかっていること・知っていることや、そこから考えたことを書き出す
＝本時“まで”の学習（経験含む）の振り返り

学びカード

私は、「　　」について、

と考えている。

新たに学んだ知識や見方・考え方を整理する
＝本時“の”学習の振り返り

この時間で学んだことは、

である。

自分の見方・考え方の形成に寄与した情報の選択・判断

《ホイントとなった資料・意見》

自分の改まった認識や深まった思考をまとめる
＝新たな問いの発見、次の学習への接続

私は、「　　」について、

となった。

本時の学習を振り返ったときの自分の理解度を総合評価する（生徒による自己評価）
A…本時の学習内容を“これまでの学習や自分の生活等”と関連させて説明することができる
B…本時の学習内容を簡単に説明することができる
C…本時の学習内容を理解しきれていない

生徒自己評価

自分とのつながり実感度

理由

授業者評価

授業やまとめる活動等を通して、
学習内容と自分のつながり・関わりを見出す
○…つながりを感じられた
△…つながりをなんとなく感じられた
×…つながりが感じられなかった

「学びカード」の内容を見たとき、
生徒の自己評価は
A…妥当である
B…おおむね妥当である
C…妥当とは言えない

7．成果と課題

〈成果〉

○その単元での学習内容が他の単元学習時にも生きるようになり（事象間のつながりに気づくようになる等）、発言が活発になったり、考え方の幅が広がったりするようになった。

○「学びカード」での自己評価に継続的に取り組むことで、生徒はその活動が習慣化し、自分が理解できている内容や知識の定着が不十分な内容などを自身で分析できるようになり、より効果的・効率的に学習に取り組めるようになった。また、そこでの学びを次の学習へつなげることにも有益であるとみることができた。

○「学びカード」によって、生徒の理解度等を指導者が把握できるようになり、指導の改善に役立たせることができるようになった。

〈課題〉

●公民的分野は現代社会が題材であることから、社会の課題を認識しやすく、課題解決的な学習にとりくみやすい科目である。ゆえに、自分とのつながり・関わりを感じさせやすく、レリバンスの高い学習が比較的実践しやすいといえる。今後は、地理的分野や歴史的分野において、いかにレリバンスの高い学習を実践するかについて、検証する必要がある。

＊ある単元の振り返りで見出された問いが、その直後の単元の問いとしてただちに生かされるほどに、社会科の教育内容は系統的には構成されていない。そのため、振り返りの段階で生み出された問いを、その後のどこかの単元で生かすという観点が求められる。（単元間、学年間、分野間のつながり等）

●「レリバンスがある学習」とは、ある立場から見て、学ぶ意義や自分との関わりを感じられる学習を指すが、その立場が“学習者個人”から見たものか、“社会全体”から見たものかによって解釈は変わってくる。今回は、生徒の社会参画がポイントであったため、前者に焦点を当てたが、生徒の実態によっては、後者の視点から考えさせることも有効であると考える。

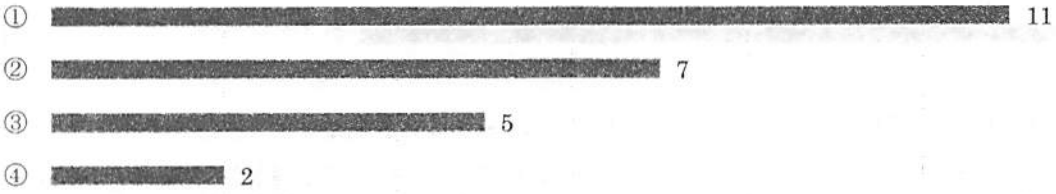
●評価の観点が４観点から３観点に変わる。今回の実践の評価のあり方について、今後出てくるだろう新たな情報と照らし合わせるなどしながら、さらに検討をしていく必要がある。そして、各観点の評価についても、どのように測っていくか、より具体的に考えていきたい。

◆社会的・学術的には有益な知識（鎖国、カースト、人権など）は、生徒の今や将来の関心からすると、現実的にはつながりが遠い存在である。生徒がそれらの学習の意義をも感じることができる授業について、今後さらに構想していかなければならない。

＊事前アンケート＊

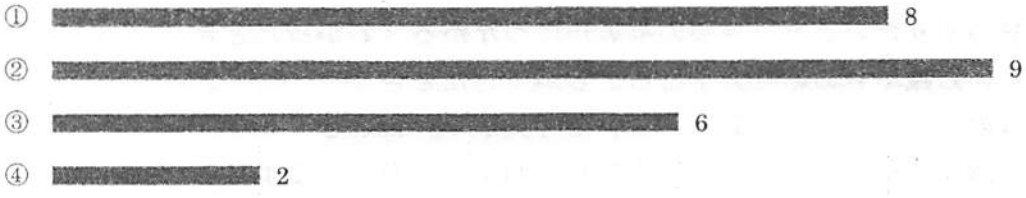
1．社会科の授業には意欲的に取り組めていますか

①「はい」　②どちらかと言えば「はい」
③どちらかと言えば「いいえ」　④「いいえ」



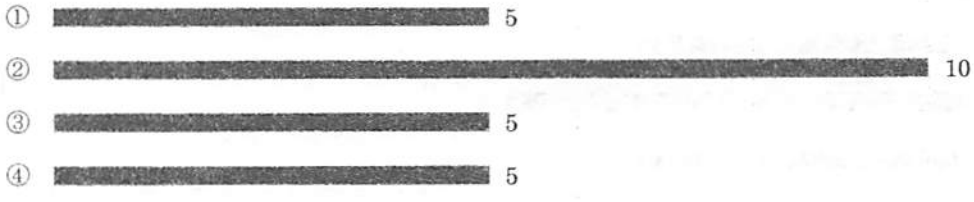
2．他の人と意見を交わすことは好きですか

①「はい」　②どちらかと言えば「はい」
③どちらかと言えば「いいえ」　④「いいえ」



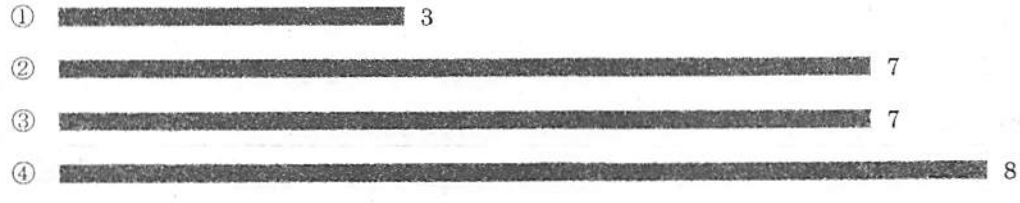
3．社会の課題について，よりよい解決策を考えるのは好きですか

①「はい」　②どちらかと言えば「はい」
③どちらかと言えば「いいえ」　④「いいえ」



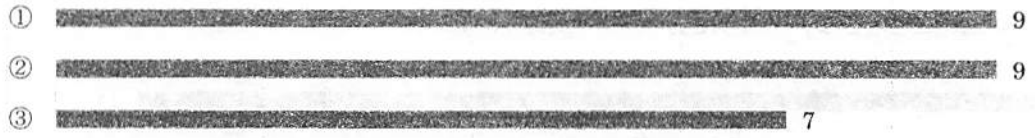
4．自分の意見を表現（発表・記述）することは得意ですか

①「はい」　②どちらかと言えば「はい」
③どちらかと言えば「いいえ」　④「いいえ」



5．日頃からニュースに興味や関心がありますか

①「ある」　②一部のニュースについては「ある」　③「ない」



①・②→興味・関心が高いのはどのようなニュースですか

テクノロジー，自分の趣味，自分の好きなもの，スポーツ，動物，事件，芸能

6．勉強にやりがいを感じるのはどのようなときですか（複数回答可）

①テスト（定期テスト・小テスト等）で高得点がとれたとき

②他の教科等で同じような内容が出てきたとき

③（友だち等に）質問されたことにしっかりと答えられたとき

④ニュース等の内容がよくわかるようになったとき

⑤自分のやりたいこと（将来の夢等）につながるとわかったとき

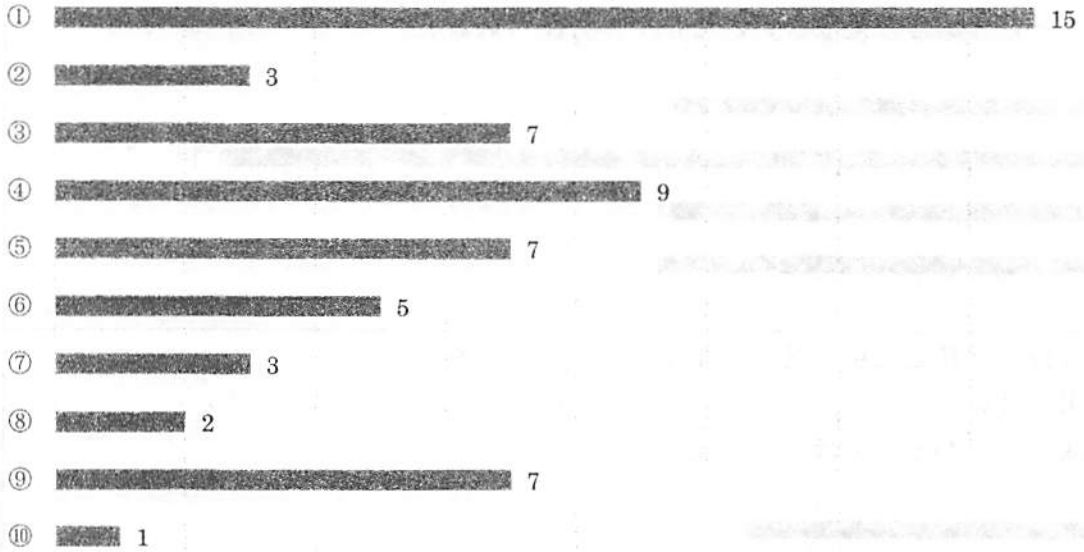
⑥新しい知識やものの見方を得ることができたとき

⑦自分の今までの認識が間違っていたと気がついたとき

⑧ある話題について友だち等と意見を交わすことができるようになったとき

⑨生活の中で勉強したことが生かされていると実感したとき

⑩その他（　　）



＊⑩その他…ない

2019. 4. 22 実施

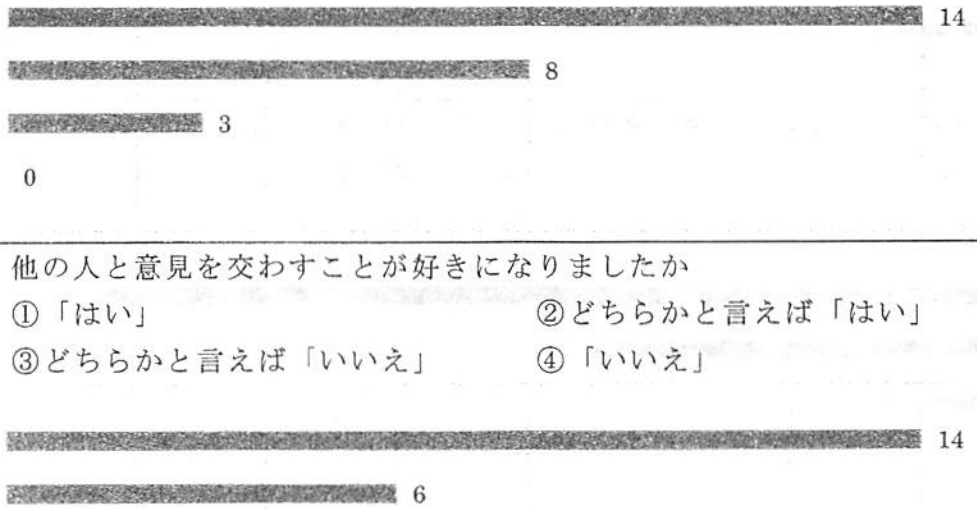
調査対象…男子 16 名　女子 9 名　計 25 名

＊事後アンケート＊

Ⅰ．社会科の授業には意欲的に取り組めましたか

①「はい」　②どちらかと言えば「はい」

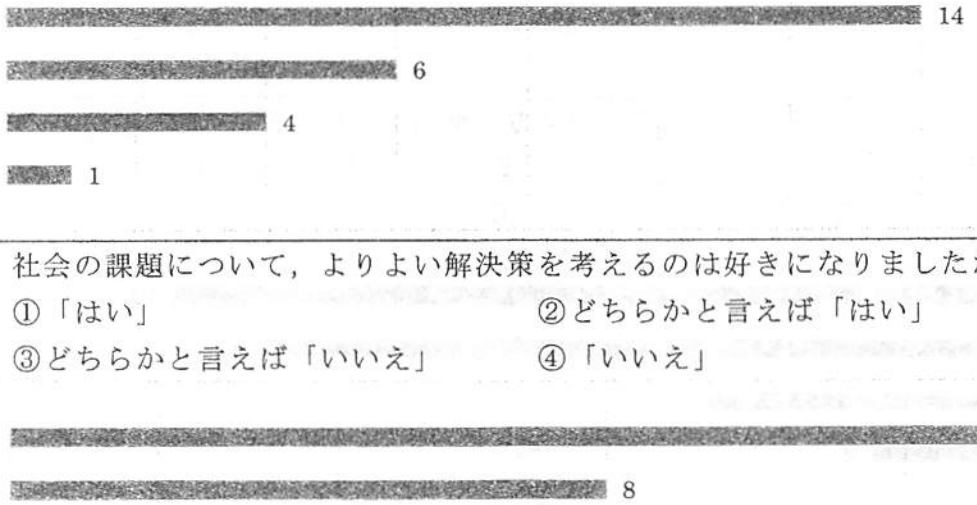
③どちらかと言えば「いいえ」　④「いいえ」



Ⅱ．他の人と意見を交わすことが好きになりましたか

①「はい」　②どちらかと言えば「はい」

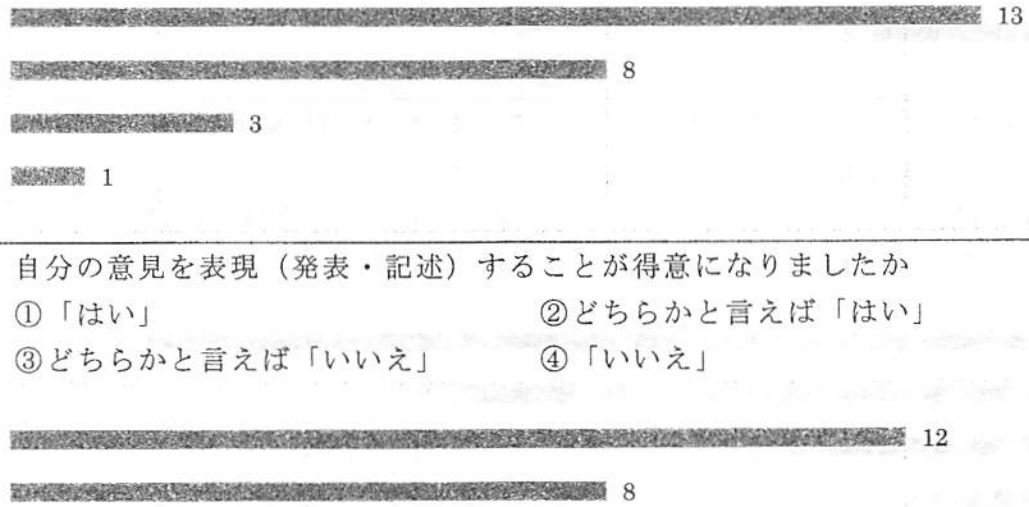
③どちらかと言えば「いいえ」　④「いいえ」



Ⅲ．社会の課題について，よりよい解決策を考えるのは好きになりましたか

①「はい」　②どちらかと言えば「はい」

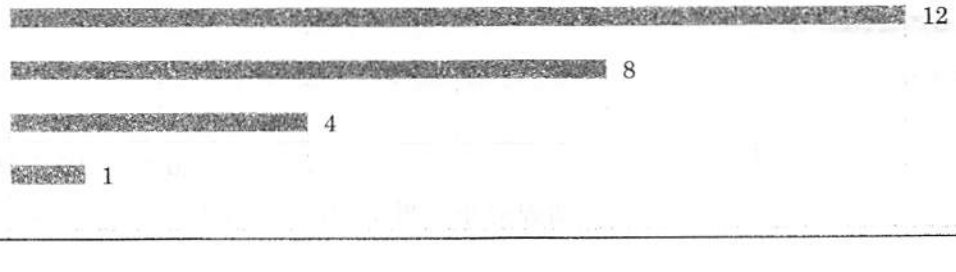
③どちらかと言えば「いいえ」　④「いいえ」



Ⅳ．自分の意見を表現（発表・記述）することが得意になりましたか

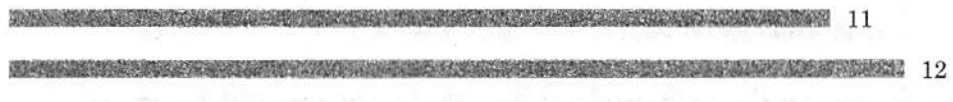
①「はい」　②どちらかと言えば「はい」

③どちらかと言えば「いいえ」　④「いいえ」



Ⅴ．日常のニュースに興味や関心がもてるようになりましたか

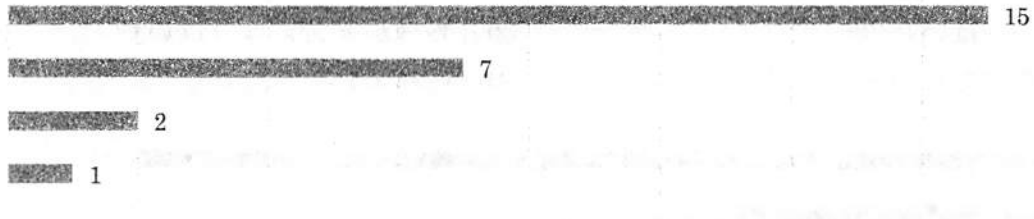
①「はい」　②一部のニュースについては「はい」　③「いいえ」



Ⅵ．自分の生活との関わりが強い題材によって，やりがいが感じられましたか

①「はい」　②どちらかと言えば「はい」

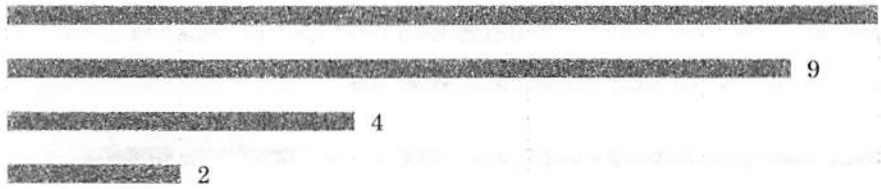
③どちらかと言えば「いいえ」　④「いいえ」



Ⅶ．「学びカード」は，自分の知識や考え方を整理するのに役立ちましたか

①「はい」　②どちらかと言えば「はい」

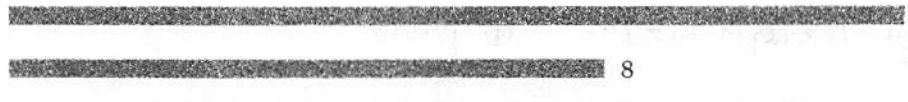
③どちらかと言えば「いいえ」　④「いいえ」



Ⅶ．「学びカード」の取り組みによって，これまでの自分の勉強に向かう姿勢に変化はありましたか

①「はい」　②どちらかと言えば「はい」

③どちらかと言えば「いいえ」　④「いいえ」



2019. 7. 19 実施

調査対象…男子 16 名　女子 9 名　計 25 名

年　　組　　番
名前

学びカード（原本）

私は，「　　」について，

と考えている。

この時間で学んだことは，

である。

《ポイントとなった資料・意見》

私は，「　　」について，

と考えるようになった。

自分とのつながり実感度

（ ○ ・ △ ・ × ）

理由

……

……

学習者自己評価

授業者評価

＊これまでの学習でわかっていること・知っていること，そこから考えたこと

既知の情報量が少ない生徒の例

…「支払う金額が増える＝イヤだ」と短絡的に考える傾向が強い

私は，「　消費税　」について，

商品を買うときに支払わないといけないお金が増えてしまうので，

嫌だなあ　と考えている。

既知の情報量をある程度もっている生徒の例

…「“いつ”“どれくらい”」がわかっている

私は，「　消費税　」について，

10月から8%から10%になることについて

必要なことだ　と考えている。

既知の情報量をある程度もっていて，社会的事象への関心が高い生徒の例

…そのできごとが及ぼす（与える）影響まで考えている

私は，「　消費税　」について，

皆，消費をひかえて経済が回らなくなるのでは

ないかと考えるので増税は反対だ　と考えている。

＊新たに学んだ知識や見方・考え方の整理

本時の学習内容の大切さは何となくわかったが，

“うまく表現できない”生徒の例

この時間で学んだことは，税は世の中をまわすための大切

な物であってなければいけないんだなと思う。

世の中が効率よく回すために作られたせい度と学んだ　である。

ただの感想になってしまいがち。
授業を受けていなくても書けてしまう内容である。

本時の学習内容について，部分的には理解している生徒の例

この時間で学んだことは，[illegible]
[illegible]
である。

授業で出てきたキーワードや数字は押さえられている。
それぞれの内容のつながりが理解できているかはわからない。

本時の学習内容について，ある程度理解している生徒の例

この時間で学んだことは，税にはたくさんの種類がある
だけでなく，税ごとにもたくさんの考え方が組み合わ
さって私たちの生活があるということ である。

《ポイントとなった資料・意見》
「特定の人」「平等」「割合」などの考え方と税の種類

自分なりに大事だと考える部分を明らかにできている。
それを踏まえて，学習したことを簡潔にまとめられている。

＊自分の改まった認識や深まった思考をまとめる
本時の学習を通して考えが改まった生徒の例

私は，「 消費税 」について，
8%から10%になるのは 高い買い物をしたとき
つく税が増えるから反対だ と考えている。

私は，「 消費税 」について，
高齢者の方々の年金に 少しずつ 10%に
はしてもいい と考えるようになった。

新しい知識の習得や認識の深まり等によって，学習前と後で考え（意見）が変わっている。

本時の学習を通して考えが深まった生徒の例

私は、「 消費税 」について、国のため、自治体のためにも
税を払う事は大切だな
と考えるようになった。

自分とのつながり実感度

（ ○ ・ △ ・ × ）

理由
若い、
成人になったら、若い人達の税金で
年金がもらえることを知ったから。

税の使い道の一例を具体的に学んだことで，それまでイメージで捉えていた税について，より深く考えようとしている。

本時の学習内容と自分とのつながりを認識した生徒の例

私は、「 消費税 」について、
反対だったけれど、自分との生活と直結しているから、必要である
と考えるようになった。

自分とのつながり実感度

（ ○ ・ △ ・ × ）

理由
将来、はらうようになるし、
今の学校生活は税金で成り
立っているから

現在の自分の生活と税のつながりに加え、将来的な税との関わりについてまで考えを巡らせている。その結果，考えも改まっている。